

2018 年 12 月 6 日

CPC : 剖検症例検討会 (日本医師会生涯教育講座)

脳梗塞様症状で発症した肝門部腫瘍の 1 剖検例

司会：消化器内科	清水 晴 夫
臨床：臨床研修医	稗 田 翔 平
臨床研修医	村 松 里 沙
消化器内科	山 川 司
病理：臨床検査科	小 西 康 宏
臨床検査科	今 信 一郎

臨床経過

症例は 71 歳女性。言葉のもつれ、右顔面麻痺が急に出現したため救急要請し、近医脳神経外科病院に搬送された。頭部 MRI にて多発性の微小な脳梗塞巣を認め、血栓性脳梗塞として抗血小板薬による治療がされた。同院入院中に体重減少と腹部膨満感が出現し、腹部 CT にて肝門部腫瘍が疑われたため、当院消化器内科受診予定となっていた。脳神経外科病院退院後に倦怠感を自覚し、救急要請し当院へ搬送された。

当院初診時身体所見としては、意識清明、神経学的異常所見はなかった。眼球結膜の黄染なし。腹部は膨隆、鼓音を聴取した。血液検査所見としては、WBC 9580/ μ L、Hb 11.4 g/dL、Plt 33.7×10^4 / μ L で白血球は増加していた。HBsAg (+)、HBsAb (-)、HCV-Ab (-) と B 型肝炎ウイルスキャリアーだった。AST 37U/L、ALT 32U/L と肝酵素は正常だった。ALP 1343U/L、LDH 490U/L、 γ -GTP 659U/L と胆道系酵素は上昇を認めた。CRP は 5.81 mg/dL と上昇していた。凝固系は、D-dimer が 13.6 μ g/mL、FDP が 34.4 μ g/mL と上昇していた。腹部単純 CT で、腹水、肝門部の充実成分が指摘され、胆嚢壁肥厚、肝門部胆管壁の肥厚、肝内胆管拡張が見られた。肝には、転移性腫瘍を疑う所見が見られた。胆嚢癌、胆管癌等の悪性腫瘍を疑い、腫瘍マーカーを検索したところ、CEA が 223.6 ng/mL と上昇していた。CA19-9 は 19.3U/mL だった。当院消化器内科入院となり、腹部膨満の改善目的に利尿薬内服を開始した。入院 2 日目に、酸素化不良を認め、肺血栓塞栓症を疑いヘパリンを開始した。造影 CT を施行したが、肺動脈には血栓を認めなかった。肝門部に、造影効果を伴う不整な胆嚢壁と胆管壁の肥厚を認めた。心エコー、上部消化管内視鏡検査を施行したが、特記すべき病変は認めなかった。入院後 10 日目に、腹水穿刺を施行し、細胞診に提出をした。入院後 12 日目に、腹水より

悪性細胞陽性で腺癌が推定された。発熱と呼吸促進を認め、造影 CT を施行したところ、肺に小葉間隔壁の肥厚、スリガラス状陰影を認め、癌性リンパ管症の所見と考えられた。脾梗塞も認められた。全身状態不良で積極的治療適応はないと判断し、家族と相談し BSC の方針となった。入院後 23 日目に、不隠、意識レベル低下、酸素化低下が見られ、家族に見守られ永眠された。

病理解剖診断

1. 胆嚢癌 (por>sig>tub1) 転移：肝、両肺、両副腎右腎、食道、胃、膵、左卵巣、子宮、骨髄、肝門部リンパ節、膵周囲リンパ節、大動脈周囲リンパ節、両肺門リンパ節、癌性腹膜炎、癌性胸膜炎 2. 心筋微小壊死 (290 g) 3. 左腎梗塞 (左腎 140 g、右腎 130 g) 4. 脾梗塞 (60 g) 5. 膵管内乳頭粘液性腺腫 (IPMA) 6. 右腎平滑筋腫 (0.7 cm) 7. 子宮平滑筋腫 (1.5 cm) 8. 前胸部皮膚神経線維腫 (0.7 cm) 9. 大動脈粥状硬化症 10. 腹水 (4300 mL)、右胸水 (300 mL)、左胸水なし

病理解剖は、死後 1 時間 55 分に開始された。腸間膜には、1 mm から 3 mm 大の腫瘍の播種が多数見られた。胆嚢と肝門部胆管の壁は、腫瘍の増生で硬化、肥厚していた。肉眼的には、原発が胆嚢か肝門部胆管か判定困難だった。固定後の断面を検索したところ、胆嚢壁の肥厚が胆管壁の肥厚より高度で胆嚢壁に腫瘍の volume が多いと考えられた。組織学的には、胆嚢粘膜には、一部高分化型腺癌が見られ、低分化腺癌が主体の像であった。胆管壁は、低分化腺癌のみの増生像で高分化型腺癌の成分はなかった。以上の所見から、胆嚢原発の腺癌と判定した。

今回の症例では、粘液産生性の腺癌を背景に、心、脾、左腎等に血栓形成性の梗塞が見られた。この病態は、Trousseau 症候群に相当する所見と考えられた。Trousseau 症候群は、悪性腫瘍に合併する凝固能亢進状

態をいい、本邦では悪性腫瘍に伴う血液凝固亢進により

脳卒中を生じた病態と捉えられることが多い。

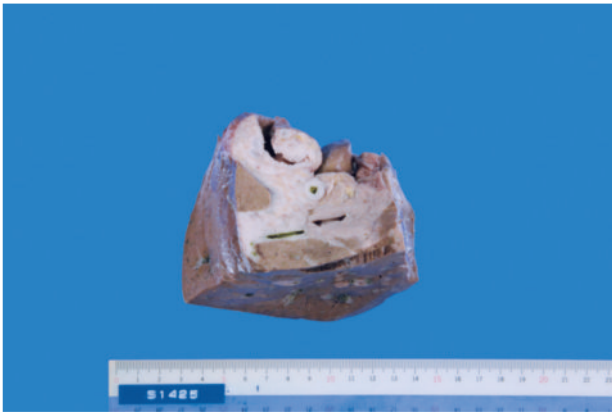


図1 肝門部のホルマリン固定後の剖面
胆嚢壁の肥厚が総胆管より目立つ。

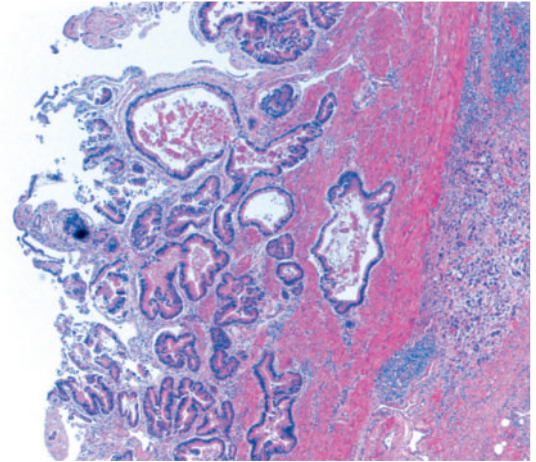


図2 胆嚢粘膜の組織像 (HE 染色)
高分化型管状腺癌の粘膜内増生像を認める。

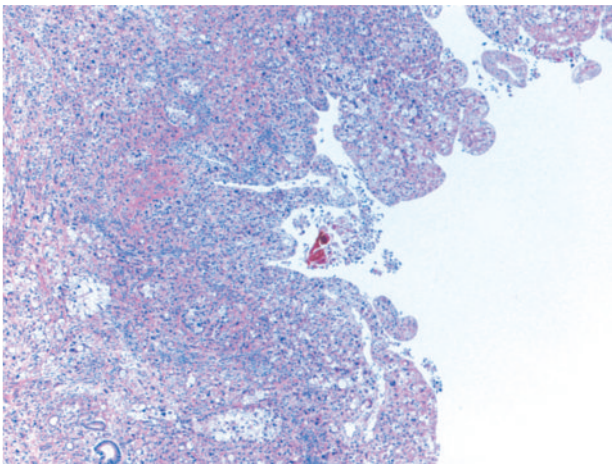


図3 胆管粘膜の組織像 (HE 染色)
低分化腺癌のみで高分化腺癌は認めない。

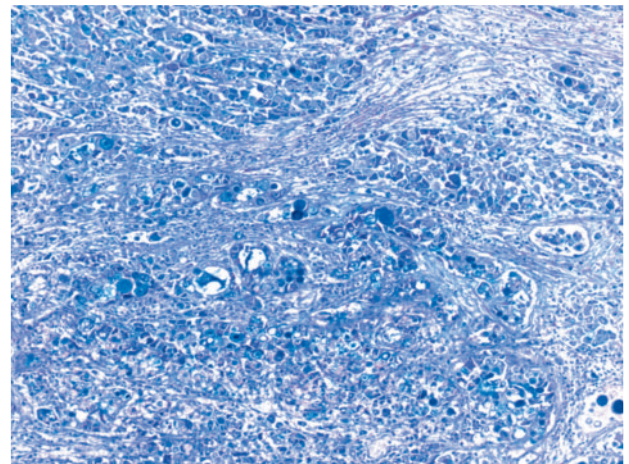


図4 腫瘍の粘液染色像 (アルシアンブルー染色)
癌細胞に青色の粘液を有する細胞を認める。

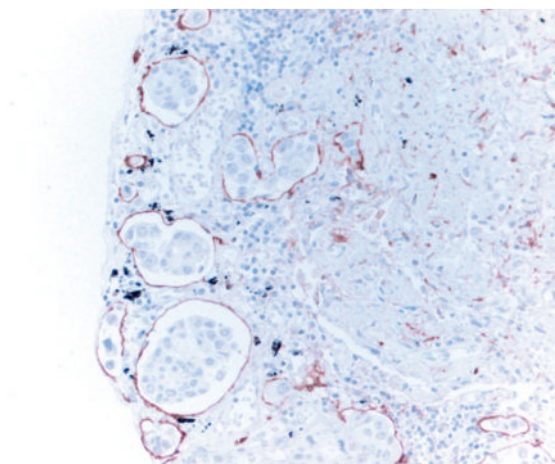


図5 肺の D2-40 の免疫染色像
胸膜面のリンパ管に癌の侵襲像を認める。

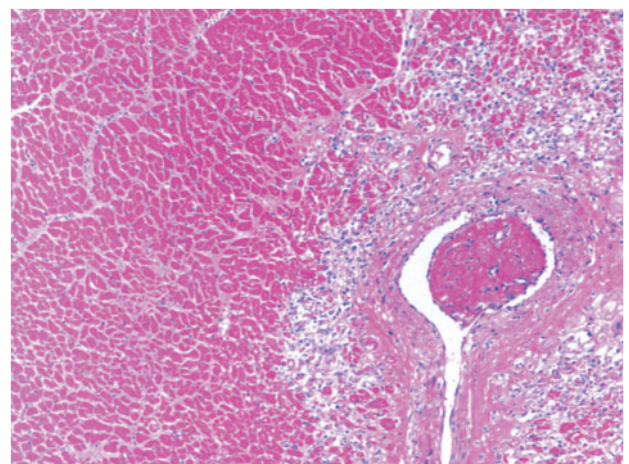


図6 心の組織像 (HE 染色)
冠動脈に血栓塞栓を認め、心筋は壊死している。